

## 別れと出会い

児玉 直樹

公益社団法人日本診療放射線技師会 副会長

これやこの 行くも帰るも 別れては 知るも知らぬも 逢坂の関

ご存じの方も多いと思いますが、百人一首の蝉丸の歌です。昔、百人一首を使った坊主めぐりの際に、私は蝉丸の絵札をよく引き、悔しい思いをしたことを覚えています。蝉丸だけには特別ルールがあり、どんなにたくさんの札を持っていたとしても最下位が確定する、というルールでした。この蝉丸の絵札を幾度となく引いたので、蝉丸とはどのような人物なのか調べたことがあります。この蝉丸は、百人一首では頭巾をかぶり僧侶の服装をしているため、坊主なのかと思いましたが、坊主であった記録はなく、平安初期の歌人で、盲目の琵琶の名手であったといわれていますが、その実在すら確かな史料で証明されていない、謎に満ちた人物でした。平家物語では、蝉丸は逢坂山近くの四宮河原に住む、醍醐天皇の第四皇子とされています。能に蝉丸という謡曲があり、醍醐天皇の第四皇子の身分ではあるが、華やかな暮らしを享受できず、厳しい環境に身を置き、悲運のふたり（蝉丸と逆髪）が、逢坂山でしみじみとお互いの身の上を語り合い、別れていくというものです。



大学教員としての生活は間もなく20年を迎えますが、ソメイヨシノが満開になる時期に多くの学生を受け入れ、そして社会へと送り出してきました。春はまさに出会いと別れのシーズンです。この時期になるとこの蝉丸の歌を思い出し、会者定離を感じます。会者定離とは、出会う者とはいつか必ず別れる運命にあるという意味であり、人生そのものと思います。一期一会という言葉もありますが、一期一会は出会いに重きを置いた言葉ですが、会者定離は別れに重きを置いた言葉です。会者定離の世の中だからこそ、共に過ごした時間がより輝かしいものになると思っています。この春に診療放射線技師として新たに社会へ挑戦する新人の皆さんとの出会いに期待をしつつ、これから一緒に過ごす時間が有意義なものになることを祈念しています。新人の皆さんには、日本診療放射線技師会にぜひ入会いただき厚生労働省告示第273号研修（告示研修）を受講いただくとともに、診療放射線技師の将来について一緒に考える機会が持てることも望んでいます。日本診療放射線技師会には若い世代の柔軟な発想と行動力が必要です。若い力を引き出し、発揮できる環境を備えた新しい日本診療放射線技師会を構築したい。

この6月に日本診療放射線技師会では役員改選があり、理事15人、監事2人が退任されます。退任される役員の方々と過ごした時間は、私にとって非常に有意義な時間であったとともに、診療放射線技師の将来を見据えた<sup>しんし</sup>真摯な議論をしていただき大変感謝しております。今後はそれぞれの立場から日本診療放射線技師会をサポートしていただければと思います。また今回、新たに日本診療放射線技師会の役員に選任される方々とは、今後の診療放射線技師の将来について熱い議論を交わしたいと考えています。医療を取り巻く環境は急速かつ劇的に変化しておりますので、迅速に対応していく力をお互いに磨いていきたいと思っています。新たに社会へ挑戦を始めた診療放射線技師やこれらか診療放射線技師を目指す世代が、誇りを持って働くことができる職業にしていきたい。